

京都市立病院 連携だより

vo.61
令和8年7月



- 新任部長ご挨拶
- 食道外科のご紹介
- 緩和ケア科のご紹介
- 脳神経内科のご紹介

京都市立病院機構理念

京都市立病院機構は

- 市民のいのちと健康を守ります
- 患者中心の最適な医療を提供します
- 地域と一体となって
健康長寿のまちづくりに貢献します

京都市立病院憲章

- 1 質の高い安全な医療を提供するとともに、地域の医療水準の向上に貢献します。
- 2 患者の権利と尊厳を尊重し、心のこもった医療を提供します。
- 3 救急や災害時における地域に必要な医療を提供するとともに、地域住民の健康の維持・増進に貢献します。
- 4 病院運営に参画する事業者等とのパートナーシップを強め、健全な病院経営に努めます。
- 5 職員の育成に努め、職員が自信と誇りを持ち、全力で医療に従事できる職場環境を作ります。

新任部長ご挨拶

耳鼻いんこう科 部長 瀧 正勝



本年4月1日より豊田健一郎先生の後任として京都市立病院耳鼻いんこう科部長に着任いたしました。私は1998年に京都府立医科大学を卒業後、同大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室に入局しました。同大学附属病院で研修医と修練医、近江八幡市民病院（現近江八幡市立総合医療センター）勤務ののち、2003年大学院へ進学し（京都大学認知行動脳科学講座へ2年間国内留学）、本年3月まで（途中2011年に3か月間ミュンヘン大学へ留学はありましたが）後期専攻医、助教、学内講師、講師、准教授と計20年以上京都市立医科大学および附属病院で勤務し、めまいや難聴、中耳炎などの診療にあたっていました。

京都市立病院はがん診療および感染症治療に力をいれており、耳鼻いんこう科でも頭頸部癌の化学放射線療法、手術治療なども行っております。それに加え、中耳炎、副鼻腔炎、扁桃炎、突発性難聴、顔面神経麻痺など通常の耳鼻咽喉科疾患の治療についても同時に行っています。

20年以上も勤務した場所から移ってきましたため、今までと勝手が違うことも多く戸惑っておりますが、少しでも患者様の治療のお役に立ちたいと考えております。みなさま、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

新任担当部長ご挨拶

整形外科 脊椎外科部長 田中 真砂史



2026年4月1日より、京都市立病院整形外科 脊椎外科部長に就任致しました田中 真砂史と申します。1999年に大学卒業後、まず麻酔科で全身管理と集中治療、ペインクリニックを学び、2004年に京都大学整形外科に入局しました。その後、京都市立病院や市立長浜病院などの関連病院に赴任し、2010年に京都大学大学院医学研究科博士課程（整形外科）に戻って参りました。2014年に大学院を修了して学位を取得した後、大津赤十字病院に赴任し、2016年から1年8か月間、米国ニューヨーク コロンビア大学医学部脊椎外科に留学し、Dr. Lawrence G. Lenkeの下で脊椎脊髄外科の研鑽を積んでまいりました。帰国後は日野記念病院 滋賀脊椎センターで7年2か月間、脊椎脊髄外科の臨床・手術を専門的に行ってきました。日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医、日本専門医機構脊椎脊髄外科専門医、麻酔科標榜医などを有しております。京都市立病院脊椎外科の伝統と歴史を継承しつつ、最小侵襲で最大限の効果を得られるよう新たな技術や手術手技も取り入れ、地域の先生方と緊密に連携させていただきながら、世界水準の医療をこの京都の地で患者様第一に提供させていただきたいと考えております。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

食道外科専門医認定施設となりました

総合外科 にしごり たつと 錦織 達人



食道がんは胃がんや大腸がんと比べると比較的稀ながんで、食道切除術は消化器外科領域の中でも最も侵襲度の高い手術の一つとされており、十分な経験と専門的な診療体制が求められます。

このたび京都市立病院は、日本食道学会より食道外科専門医認定施設の認定を受けました。食道外科専門医認定施設は、食道がんに対する十分な診療体制と治療実績を有する施設が認定され、良好な治療成績が報告されています。また、食道がんに対するロボット支援手術を実施するためには食道外科専門医が関与することが要件とされています。現在、京都府内で食道外科専門医が常勤する施設は3施設に限られています。



ロボット手術の利点

- 鉗子が指先のように繊細に動く
- 手振れ防止機能を備える
- 拡大視野下で操作できる

神経麻痺や損傷を予防しつつ精緻な操作を可能とし、安全性の向上や術後回復の促進が期待されています。

食道外科専門医認定施設は京都府内では3施設のみです。当院はその一つとして、消化器内科、腫瘍内科、放射線治療科の専門医を有し、院内に緩和ケア病棟を備えており、根治治療から再発治療、緩和医療まで切れ目なく対応できる体制を整えています。また、麻酔科、手術部、集中治療部とともに、呼吸器内科、循環器内科、腎臓内科、内分泌代謝内科などの関連診療科との密接な協力体制があり、併存疾患や化学療法の有害事象等に対応しています。

そして、看護師、管理栄養士、リハビリテーションスタッフ、心理士、薬剤師、歯科医、医療ソーシャルワーカーといった多職種チーム医療が機動的に連携しているのが当院の特徴であり、手術後の体力低下を予防するといった包括的で先進的な患者サポートを実践しています。

食道がんが疑われる患者さん、内視鏡検査で食道がんと診断された患者さん、食道浸潤を伴う胃がんの症例、治療方針にお悩みの症例、高齢者や併存疾患を有するハイリスク症例につきましても、ぜひご相談ください。地域の先生方との連携を大切にし、迅速な診療と丁寧な情報共有に努めてまいります。

緩和ケア科のご紹介

緩和ケア科 部長 大西 佳子

～苦痛を和らげ、その人らしい生を支える専門チーム～

がんをはじめとする生命を脅かす疾患と診断された患者さんには、診断の早期から緩和ケアを治療と並行して行うことが重要です。まず、主治医チームが日常診療のなかで基本的な苦痛緩和に取り組み、それでも対応しきれない複雑な症状や心理社会的問題に対して、専門的緩和ケアチームである当科が連携して介入します。

当院緩和ケア科は、そのような専門チームとしての役割を担い、患者さんにご家族のあらゆる苦痛に真摯に向き合っています。

専門チームによる多角的アプローチ

緩和ケアチームは、緩和ケア科医師・放射線治療科医師・精神神経科医師・緩和ケア認定看護師・薬剤師・医療ソーシャルワーカー (MSW)・管理栄養士と多職種で構成され、週1回のカンファレンスと、日々の診療にあたっています。

緩和ケア病棟では、医師・看護師を中心に、適宜、栄養士・リハビリスタッフ・MSW・薬剤師も加わり、毎日カンファレンスを行い、身体症状・心理社会的苦痛・スピリチュアルペインを包括した「全人的ケア」の方針を検討し、患者さん・ご家族とともにそれぞれのゴール設定を行っています。



対象疾患・ご紹介の目安

対象はがんを中心としつつ、心不全・慢性呼吸不全・腎不全・神経難病など、生命予後に影響する非がん疾患など、多岐に渡ります。

2026年6月の診療報酬改定では、緩和ケア診療加算・外来緩和ケア管理料等の算定（緩和ケアチームの算定）対象に末期心不全だけでなく、末期呼吸器疾患および末期腎不全が新たに加わり、非がん疾患への緩和ケア提供がより一層推進されています。緩和ケア病棟に関しては、がん、AIDSだけでなく、終末期腎不全の受入れについても、今後、整備していく予定にしております。

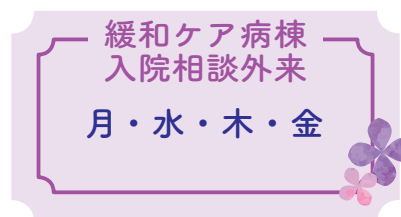
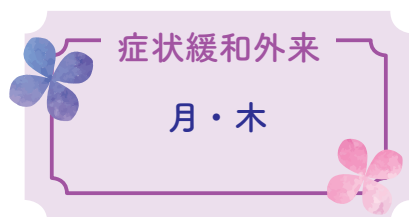
- 鎮痛薬・オピオイドの調整が難しい疼痛
- 呼吸困難・倦怠感・食欲不振・せん妄など、症状コントロールの強化が必要な場合
- 病状告知後の精神的サポート・意思決定支援
- 在宅移行・ホスピス転院に向けた早期からの準備
- 療養場所や今後の方針について患者さん・ご家族が迷われている場合

がん性疼痛への専門的介入

薬物療法に加え、当科ではがん性疼痛に対する神経ブロックも実施しています。オピオイドのみでは制御が難しい難治性疼痛に対してインターベンション治療を組み合わせ、より質の高い疼痛緩和を目指します。疼痛治療にお困りのケースはお気軽にご相談ください。

外来のご案内

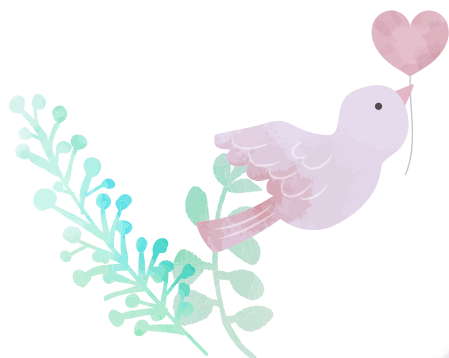
症状緩和外来は月・木、緩和ケア病棟入院相談外来は月・水・木・金で行っております。
いずれも紹介状をもとに予約制で対応しております。



地域連携・在宅支援との協働

当科は「病院完結型」ではなく、地域全体で患者さんを支える体制づくりを重視しています。訪問診療医・訪問看護ステーション・ケアマネジャー・薬局と情報共有を行い、退院後も安心して療養生活を送れるよう継続的に支援します。また、地域の医療・介護スタッフの皆様とともに地域連携緩和ケアカンファレンスおよび緩和ケア研修会を毎年開催し、顔の見える関係づくりを通じて病院と地域が一体となった緩和ケアの質向上を目指しています。

ご紹介・ご相談は地域連携室を通じて平日随時受け付けております。患者さんにとって最善のケアを追求してまいります。どうぞお気軽にお声がけください。



脳神経内科のご紹介

～地域に根ざした高度な神経疾患診療を目指して～

脳神経内科 部長 中谷 嘉文

1. ご挨拶と基本方針

京都市立病院脳神経内科の中谷です。当科は現在、常勤医6名体制で、脳血管障害から変性疾患、神経免疫疾患まで、神経疾患全般にわたる専門的な診療を行っております。地域の基幹病院として、迅速で精度の高い診断と、最新の標準治療を提供することを目指しています。



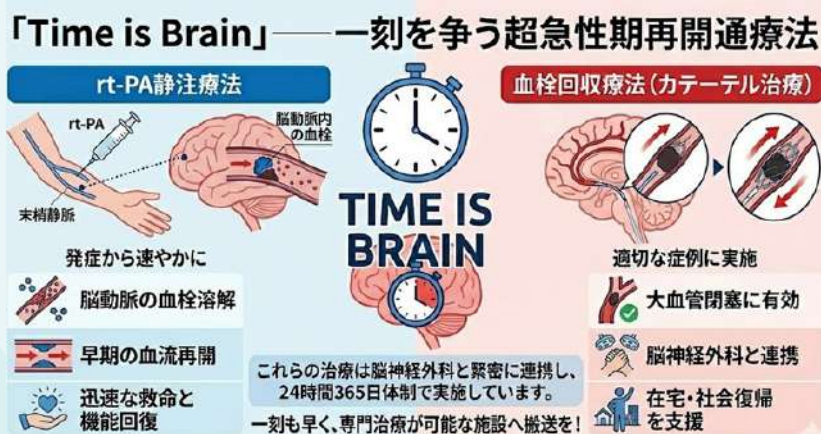
2. 主要疾患と当科の強み

特に以下の領域において、周辺医療機関の先生方との緊密な連携を重視しています。

◎脳血管障害

急性期脳梗塞の治療は、「Time is Brain」と言われる通り、発症からいかに早く再開通療法（rt-PA静注療法や血栓回収療法）を開始できるかが、救命率の向上や後遺症の軽減の鍵となります（図1）。

当院でも脳外科医師と連携し、急性期治療につとめています。入院直後から、再発予防のためのリスク管理と並行し、可能な限り早期からリハビリテーションを開始しています。多職種連携による集学的アプローチにより、機能回復はもちろん、在宅療養や社会復帰を支援しています。



<図1>

◎認知症診療（抗アミロイドβ抗体療法）

従来のアルツハイマー型認知症の治療薬は、神経細胞間の伝達を調整する症候改善薬（ドネペジル、メマンチン）であり、主な対象は認知症に進展した患者様でした。これに対し、近年開発された抗アミロイドβ抗体薬は、脳内に蓄積したアミロイドβを直接除去することで、病気の進行そのものを遅らせることが期待されています（図2：右ページ）。

2023年にレカネマブ、2024年にドナネマブが薬事承認を受け、現在広く使用されています。

当院は従来フォローアップ施設として投与を行っていましたが、今年度より新たに「初回投与施設」としての取り組みを開始しました。

本療法の対象は、MCI（軽度認知障害）または軽度認知症の段階にあるアルツハイマー病患者様となります。

適応を適切に判断するため、認知機能検査、MRIに加えて、髄液検査を院内で行っています（アミロイドPET撮像は近隣施設と連携して実施しています）。

アルツハイマー病と治療薬

アミロイド仮説：アルツハイマー型認知症となるしくみ

<アミロイド病理>

アミロイド前駆蛋白 → Aβオリゴマー → Aβプロトフィブリル → 老人斑



<神経細胞の病理>

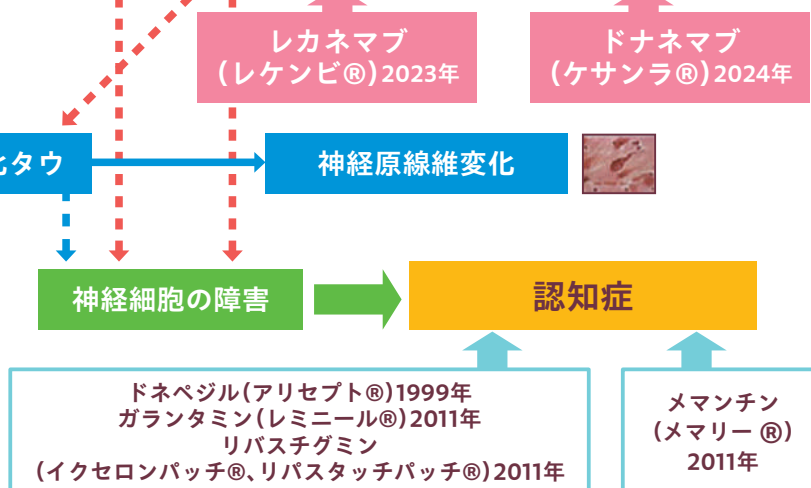
タウ蛋白 → 異常リン酸化タウ → 神経原線維変化



<臨床症状>

神経細胞の障害 → 認知症

(注) 数字は、日本で承認された年



<図2>「厚生労働省 認知症施策 2)抗アミロイドβ抗体薬について」より引用

また治療に伴う副作用 (infusion reaction、ARIA：アミロイド関連画像異常) の対応についても院内指針を策定し、円滑に専門的治療を提供できる体制を整えています。

また本療法は、導入から6か月を目安に、病状が安定した段階で地域の連携医療機関 (フォローアップ施設) での継続投与へ移行することを基本方針としております。

スムーズな逆紹介についてもご協力をお願いできれば幸いです。

◎神経難病 (パーキンソン病、ALSなど)

長期的な療養が必要となる神経難病については、患者様の生活の質の維持を第一に考え、多職種チームによる生活の質 (QOL) 維持を重視したサポートを行っております。必要に応じレスパイト入院も受け入れています。

◎てんかん

当院には、てんかん専門医が2名在籍しており、専門的な脳波判読に基づく診断、および個々の症例に応じた最適な抗てんかん発作薬の選択・調整を行っています。新規発症症例から、薬剤調整が困難な症例まで幅広く対応しており、先生方の日常診療におけるバックアップ体制を整えています。

3. 地域連携への取り組み

先生方からのご紹介をいただいた際は、迅速な受診予約、検査実施を心がけております。「神経疾患かどうか確信が持てない」「まずは一度評価を依頼したい」といった段階でのご相談也大歓迎です。

4. おわりに

脳神経疾患は早期発見と適切な評価・管理が重要です。先生方の日常診療における「身近な専門診療科」として、より一層お役に立てるよう努めてまいります。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

紹介患者さん診療・検査事前予約ご利用のご案内

医療機関用 「SAKU洛連携」

Web予約

ご予約時には事前に利用登録が必要です。

【利用申し込み】【Web予約システムについて】は下記ホームページをご確認ください。
(<https://www.kch-org.jp/medical/chiikirenkei>)

●予約方法

①Webページ上で予約を取得してください。

「SAKU洛連携」

(<https://www3.e-renkei.com/hospital/group-sakuraku/login.php>)

②患者さんに以下をお渡しください。

- ・予約受付票
- ・診療情報提供書(紹介状)
- ・画像データ等

③「診療情報提供書」を当日中にFAXで送信してください。

④患者さんに、以下をお持ちのうえ、予約受付票のご案内時間までにお越しいただくようお願いください。

■先生から受取ったもの

- ・予約受付票
- ・診療情報提供書(紹介状)
- ・画像データ等

■別に必要なもの

- ・マイナ保険証又は健康保険証
- ・診察券
- ・お薬手帳又はお薬のわかるもの

医療機関用 外来診療・検査事前予約 FAX予約

待ち時間を短く患者さんが円滑に診療・検査を受けられるように、病院及び診療所の先生から『事前予約』をお受けしております。

●予約方法

①「紹介患者さん事前予約申込FAX用紙」に必要事項を記入し、地域連携室までFAXで送信してください。

②直ちに、予約をお取りし、「予約受付票」をFAXで送信します。ただし、受付時間外のFAXについては、翌営業日の朝にご連絡いたします。

③患者さんに以下をお渡しください。

- ・予約受付票
- ・診療情報提供書(紹介状)
- ・画像データ等

④ご来院時、患者さんには以下をお持ちいただきます。

■先生から受取ったもの

- ・予約受付票
- ・診療情報提供書(紹介状)
- ・画像データ等

■別に必要なもの

- ・マイナ保険証又は健康保険証
- ・お薬手帳又はお薬のわかるもの
- ・診察券



予約受付先

●京都市立病院地域連携室

TEL (075)311-5311(代) (内線2113)

FAX (075)311-9862(専用)

●事前予約医療機関専用電話

(075)311-6348

事前予約受付時間(土日祝日を除く)

平 日/8:30~19:00(木曜日は17:00まで)

FAXは、24時間お受けしています。

地域連携相談業務

平 日/8:30~17:00(月曜日~金曜日)

患者さん用 紹介患者さん事前予約センター 電話予約

先生からの紹介状があれば、患者さんからのお電話で、ご自身のスケジュールに合わせた予約をお取りいただくことができます。(※担当医師の指定、検査の予約はできません)

●予約方法

①お電話をされる前に、患者さんには以下をお手元にご用意いただけます。

- ・事前予約申込票(必要事項記入済みのもの)
- ・診療情報提供書(紹介状)
- ・診察券 ※初診でもご予約可能です。

②患者さんから「事前予約センター」へお電話いただけます。

専用電話番号 (075)311-6361



受付時間/月~金(9:00~17:00)

※土・日・祝・年末年始(12/29~1/3)を除く

●ご予約は前日17:00まで受付しております。

▶電話予約時に確認させていただく内容

- ・患者さんのお名前(漢字・ヨミガナ)
- ・生年月日・性別
- ・ご連絡先(電話番号等)
- ・紹介元医療機関名・予約診療科

③ご来院時、患者さんには以下をお持ちいただきます。

■先生から受け取ったもの

- ・事前予約受付票(必要事項記入済みのもの)
- ・診療情報提供書(紹介状)
- ・画像データ等

■別に必要なもの

- ・マイナ保険証又は健康保険証
- ・お薬手帳又はお薬のわかるもの
- ・診察券

健康診断や人間ドック、各種検診で「要精密検査」となった場合でも、上記と同様の手続きで事前予約が可能です(初診でも予約可)。ぜひご利用ください。

※ただし、市立病院で人間ドックを受けられた場合は、健診センターでの予約となります。

専用の申込用紙は、京都市立病院のホームページからダウンロードが可能ですので、ぜひご利用ください。



地方独立行政法人 京都市立病院機構

京都市立病院

地域連携室

〒604-8845 京都市中京区壬生東高田町1-2

TEL 075-311-5311(内線2113) FAX 075-311-9862

事前予約医療機関専用電話(地域連携室直通) 075-311-6348

<https://www.kch-org.jp/>

